

第 1 1 期 第 5 回平井川流域連絡会 議事要旨

■ 日 時：令和 6 年 1 1 月 2 6 日（火） 1 4：0 0～1 6：0 0

■ 会 場：あきる野ルピア 3 階 ルピア集会室

■ 出席者：公募委員及び公募団体委員 4 名 / 行政委員 8 名（うち 2 名代理者出席）

■ 配布資料

資料 1 平井川整備工事について

資料 2 令和 5 年度生物調査結果について

資料 3 外来種（オオブタクサ）駆除作業活動報告

資料 4 平沢地区急傾斜地崩壊対策施設補修工事について

資料 5 平井川における河道の調査について

■ 議 事

1. 開 会

事務局より開会の挨拶、座長より挨拶

■ 議 題

2. 工事について

事務局より資料 1 に基づき、「平井川整備工事について」の説明。

- ・ 2 カ年に分けて、一昨年に護岸周りを、今年の 6 月までに一部護岸工、日の出橋にかかる部分の右岸側の河床掘削、管理用通路の整備を行った。
- ・ 自然石を用いた金網付きの護岸工で、すでに植栽が回復してきている。落差工についてはコンクリートに自然石を張り付けた堅い構造物になっているので、植生が生えることはない。
- ・ 今後、東平井橋を歩道 2 m と車道 4 m の 6 m に拡幅して橋脚のない橋に架け替え、併せて東平井橋と日の出橋間の護岸整備を計画している。
- ・ 東平井橋の架け替えと護岸の整備が終われば、さらに上流に整備を進めていくことを計画している。

○質疑応答

- ・ 東平井橋の架け替えと護岸の改修工事は、治水の関係で流量を増やすというような工事になるかと思うが、どのような予定なのか。（公募委員）
- ・ 川幅はほぼ確保できており、橋脚をなくすのでその部分の河積が増え、それによって流水阻害や溢水が防げると思っている。（事務局）
- ・ 6 m に拡幅する上で課題や難しい点があって若干遅れているのか、順調に進んでいるのか。（公募委員）
- ・ 引継ぎ等の調整や、この間にも地権者が数名いるので、用地買収等を進めたりしている。（事務局）

- ・車 1 台しか通れないが、広くしてほしいという要望はないのか。(公募委員)
- ・広くしてほしいという話は、受けていない(事務局)
- ・現時点では、広げて下さいという要望は入っていない(あきる野市)
- ・尾崎の田んぼに水を上げていたところだが、水利権について状況を教えてほしい。(公募委員)
- ・上尾崎の用水組合の話だと思うが、用水自体はもう閉鎖されていて長年使われていない状態なので、水利組合としては水利権を放棄するという話になっている。(事務局)

■ 報 告

3. 令和 5 年度生物調査結果について

事務局より資料 2 に基づき「令和 5 年度生物調査結果について」の説明。

- ・全域調査と事業エリア調査の二つに分けて調査をしており、全域調査は多摩川合流部から岩井橋に至る 11.3km、事業エリア全体調査は現在工事をやっている菅瀬橋から千石橋間の 2 km の区間について調査を行っている。

< 全域調査 >

- ・全域調査は、前回平成 30 年の調査結果との比較をまとめている。
- ・河川環境について、瀬と淵は増加、止水域は若干減少している。工事を行っている中流部は、瀬と淵、止水域も増加しており、工事や令和元年の台風による大規模な出水等の影響もあると思っている。上流部の瀬と淵の増加も、台風の影響や川の営力といったものによって変わってきていると考えている。
- ・湧水の浸出と水質については、湧水部分が下流側で 2 箇所、上流側で 1 箇所増えている。本川よりも水温が高く、電気伝導度が低いという傾向については、ほぼ変化は見られない。
- ・湿地と湧水環境については、平高橋、草花大橋、千石橋の 3 箇所で、同様のポイントで同様の時期に調査しているが、基本的にそれほど変わっていない。
- ・横断構造物は、中流部で落差工が 1 箇所増えて、上流部で落差工が土砂等で埋没して、プラスマイナス 1 : 1 で全体の数量としては変化がない。
- ・植物相については、確認種が 566 種から 554 種と、ほとんど変化は見られないが、中流部では 62 種減少しており、要因としては、工事でツルヨシ群落の生育等、植生の遷移が進んで、単一の種類が多くなっているという可能性が考えられる。
- ・植物群落では、5 年前に比べて開放水面が減って植生面積が拡大していること、单子葉草本のツルヨシ群落が繁茂してきていることが見て取れる。植生の遷移が進行し、植生環境が安定してきていると思われる。

< 令和 2 ～ 4 年度工事区間の事後評価 - 圏央道上下流 - >

- ・令和 2 年度から植生が増えてきていることが読み取れ、令和 5 年度は工事直後で 1 年生草本が目立つが、時間とともに植生遷移が進行していくことが推察される。
- ・哺乳類については、それほど変わっていないが、アライグマ増えてきている一方、モグラが確認されておらず、今後モニタリングを継続していく。
- ・魚類については、ほとんど変化は見られないが、ジュズカケハゼが令和 4 年から確認されておらず、工事箇所以外でも個体数が減少しているので、今後も確認してい

きたい。

- ・底生動物は数が増えてきており、工事による影響は見出せない。

＜令和 2～4 年度工事区間の事後評価 - 日の出橋下流 - ＞

- ・圏央道上下流とほとんど状況は変わらない。植生、開放水面を比較すると、植生が増えてきている。工事によって現在はヨモギやメドハギなどが増えているが、今後推移して種類数が増加すると推察される。
- ・哺乳類、魚類と底生動物も同じような状況。

＜令和 6 年度以降工事区間における事前調査結果及び保全対策＞

- ・表の左側に「平井川の川づくり」で選定された主要種・要注意種を掲載している。右側は工事予定区間で確認された掲載種、真ん中は菅瀬橋～千石橋上流で確認された掲載種を示している。
- ・植物の保全対策としては、改変区域内に生育しているツルヨシ群落などの根や茎を含んだ表土を採集・保管して、工事後に埋め戻し、植生の復元を図る。またヤマアゼスゲ 1 個体を確認しているので、生息状況のモニタリングを継続していく。
- ・魚類、底生動物については、瀬替え時に河道内に取り残された種を他に移す、沈砂池を設けて濁水対策を行うなど、これまでやってきた保全対策を引き続きやっていく。

○ 質疑応答

- ・平瀬、早瀬、ワンドの数の変化を見て驚いた。淵の定義は変わっていないのか。けっこう規模が小さいと思えばいいのか。（公募委員）
- ・変わっていない。そのようになっていけば、一つとカウントしていつている。（事務局）
- ・ツルヨシが増えたので他が減ったという話だが、実感と合わない。（公募委員）
- ・工事直後は一年生草本群落が増えて、時間が経つと植生遷移が進んでツルヨシが繁茂してきて、全体の種類数は減ってきている。（事務局）
- ・令和 5 年の方が、一年生草本群落の割合がぐっと増えている。これは工事の影響と思えばいいのか。（公募委員）
- ・工事により裸地を作ると、その後は一年生草本が生えてくるので、工事の影響はあると思うが、台風で 1 度流されたことによって増えてきているということもあるので、一概には言えないが、その二つの要素があるのではないかと思う。（事務局）
- ・ギバチが工事前には確認できたが工事後には確認できていないとのことだが、本当に魚類に大きな影響はなかったと言えるのか。（公募委員）
- ・河川整備によって平らな川になってしまっているが、今後の流れで瀬や淵ができ、砂礫の底がどこかで出てきてくれれば、そういったところを好むギバチについては、どんどん寄ってくるだろうというまとめに。（事務局）
- ・モニタリングは、基準点の調査との比較というのがあったと思うが、その説明はどこかであったのか。（公募委員）
- ・説明を飛ばしてしまったが、8 ページに基準点でのモニタリング調査の種比率を書いている。上流と下流での対比だが、カワムツとカワヨシノボリで 7 割方を占め、シマドジョウ、アブラハヤは元々数が少ないという状況だ。工事区間でも、カワムツとヨシノボリが大多数を占めているというところまでは確認を取っている。ギバチは、こ

のパーセンテージにも載らないくらい数が少ない。(事務局)

4. 外来種（オオブタクサ）駆除作業活動報告

事務局より資料 3 に基づき「外来種（オオブタクサ）駆除作業活動報告について」の説明。

- ・今年 6 月 8 日に、あきる野市と平井川流域連絡会との合同の取り組みとして、瀬戸岡御堂橋上流右岸でオオブタクサの駆除作業を実施した。
- ・あきる野市の 5 月 12 日号市報などで参加者を募っていただき、計 18 名が参加した。
- ・地図に示したエリアで 2 時間ほど、オオブタクサの引き抜き、集草作業を行い、集められた草は西多摩建設事務所で収集して処分をした。
- ・作業エリア全域に繁茂している状況で、背が 1 m を超えるものもたくさんあり、引き抜くのやや苦勞した。
- ・後ろのページに当日の作業状況の写真を掲載している。

○ 質疑応答

- ・去年と今年でオオブタクサの生え方は平衡状態にあるのではないかという気がする。数回やらないと減ることはないのではないか（公募委員）
- ・すべてを絶滅するのは難しいが、少しずつでも減らして行って、市報での募集などでもっと活動が広まっていけば、もう少し減らすことができるのではないかと思う。(事務局)
- ・機運が広まってくれば、2 回 3 回やろうかという話も出てくるかと思う。今後、地域にそういった運動が波及するということも期待しながら進めていければと考えている。(座長)
- ・以前は、オオブタクサが目立ち始めた 5 月の終わり頃と、実をつける前の 8 月終わり頃の 2 回やっていて、本当に減ってきている実感があった。オオブタクサを 2 回とか、アレチウリやカナムグラなどの蔓植物についてもどうするか、考え直す手はあるかと思う。(公募委員)
- ・横沢入で、毎年オオブタクサの抜き取りをやっている。種が落ちる前の比較的小さなうちだと簡単に手で抜けるが、20 年やっても根絶できない。アレチウリとか蔓性植物も歩道の方に出てきたりしているので、対策しないといけない。(公募委員)

5. 平沢地区急傾斜地崩壊対策施設補修工事について

事務局より資料 4 に基づき「平沢地区急傾斜地崩壊対策施設補修工事について」の説明。

- ・5 年に 1 度の施設点検で、平沢地区の法枠等の施設で洗堀や土砂流出が多く見られ、表層崩壊を防止する機能を有していない状況だったため対策工事を行った。
- ・対策工事は、横ボーリング工による排水、枠内空石積工、空洞充填、吹付法枠工・ロックボルト工を、状況に応じて必要箇所に施工した。
- ・湧水が見られる箇所を草花大橋上流に確保し、「平井川流域連絡会」のクレジットが入った新たな看板を設置した。

6. 平井川における河道の調査について

事務局より資料 5 に基づき「平井川における河道の調査について」の説明。

- ・平井川の河床の変化を把握して、浚渫工事の必要性などを確認する基礎的な資料の作成のため、ヘリコプターによる 1 級河川全川での測量調査を予定している。
- ・整備計画の高さと計測した高さの比較、前回調査の地上部データとの比較で、堆積しているのか浸食しているのか、どう変化しているか今後確認をしていきたい。

7. その他

○ 羽生橋下流での化石ハンターによる景観破壊について

- ・羽生橋下流で、化石ハンターが石を叩き割って景観が悪化しているので、立て看板などの対策はできないのか（公募委員）
- ・河川内は国有地なので、草木を採ったり石を持っていくのは基本的には禁止されているところなので、周知するものを設置することはできると思うが、どこに立てるのか、河積阻害にならないかなどの課題もある。（事務局）
- ・この場ですぐには返答できないので、預からせていただいて、次回の全体会で取り上げたい。（座長）

○ 草刈りについて

- ・遊歩道部分は草刈りをして残った部分は刈らないとか、ここは東京都で、ここはあきる野市がやっているとか、残った部分は地元の自治会でも協力してくださいとか、意識合わせ的なことをやる方法はないのか。（公募委員）
- ・河川維持担当と突き合わせをして、調整ができればと思う。高欄のところに広報を掲げているが、どの範囲までという細かなところまでは示していない。（事務局）
- ・遊歩道も、市で管理したり、東京都で管理しているところもあるので、場所をしっかりと確認した上で相談させていただけたらと思う。（あきる野市）
- ・管理用通路の草刈りは毎年同じ場所なのか、代田橋から瀬戸岡御堂橋までの左岸は、今年はやっていなかったと思うが。（公募委員）
- ・要望があった箇所など追加したりして、多少の変動はあるかと思うが、基本的には毎年同じ場所を刈っている。（事務局）
- ・要望を受けて、緊急対応が必要な場合は、管理課の職員が直接行って対応することがある（事務局）

■ その他

事務局が次回全体会の開催予定について連絡。

- ・次回の全体会が第 11 期最後の活動で、令和 7 年 2 月の開催を予定している。
- ・できるだけ多くの委員に参加いただけるよう、いくつか候補日を決めてみなさんにお諮りする。年度末のお忙しい時期だが、ご理解、ご協力をお願いします。

（了）